

石川書店 WEB版

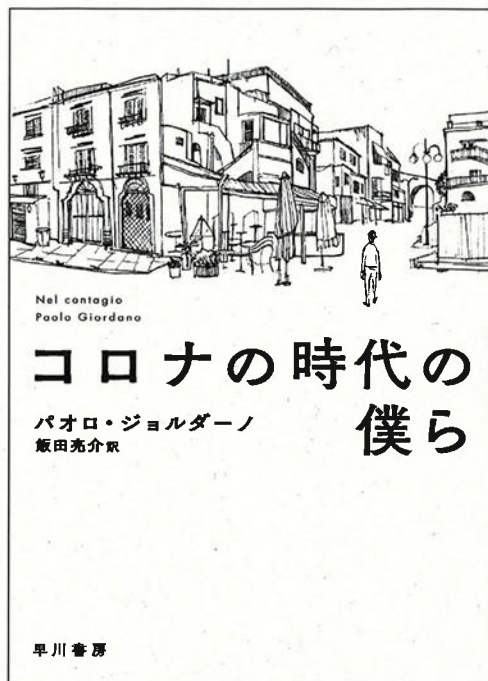
第6話 R02.04.28(火)
「今だからこそ実感できる
大切なものとは何か。」

★今回、紹介する本は、『コロナの時代の僕ら』（著/パオロ・ジョルダノ、訳/飯田亮介、出版/早川書房）です。

イタリアの小説家のパオロさんが、コロナの影響を大きく受ける、2020年2月~3月のイタリアで暮らしながら感じたことを綴ったエッセイ。

パオロさんは素粒子物理学の博士号をもち、数学的思考を好む人です。コロナに影響を受ける現状を冷静に解説しながら、穏やかな文章で、読み手の心にやさしくさまざまな問いを投げかけてくれます。

人類を75億のビリヤードの玉にたとえ、感染した玉が突っ込んでくれば、一つの玉が二つにぶつかり、さらにその玉がもう二つにぶつかり…、などとわかりやすいたえが鮮やかです。今、本当に考えるべきことは何か。今だからこそ目に見えるようになったものは何か。全ての人々が幸せを実感できる、よりよい生き方とは何かを考えさせてくれる1冊です。



「素粒子の孤独」という、パオロさんの小説もあもしろい。

「僕らは人生のすべての日々を価値あるものにする教え方を学ぶべきなのではないだろうか。」 (p.99)

説教くなく、やさしく大切なことを学ぶべきなのではないですか。

「すべてが終わった時、本当は僕たちは以前とまたと同じ世界を再現したいのだろうか。」 (p.109)

★ 今から考える。★
★ 全ての1分1秒に価値がある、それは今も同じ。★

★